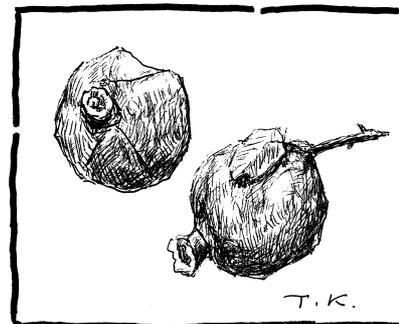


# OMNIBUS

大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報

C	O	N	T	E	N	T	S
かぎろひ	[上田晃一]	—————	—————	—————	—————	—————	2
インターネット時代；温故知新	[伊東重徳]	—————	—————	—————	—————	—————	3
医療は究極のサービス業——21世紀の医療環境（18）	[牧 彰]	—————	—————	—————	—————	—————	4
一冊の本と出合って	[梶 充季]	—————	—————	—————	—————	—————	5
電子ジャーナル利用状況について	—————	—————	—————	—————	—————	—————	6
他大学図書館訪問記（22）（広島大学図書館医学分館の巻）	—————	—————	—————	—————	—————	—————	8
書評「凍える牙」	[高瀬 泉]	—————	—————	—————	—————	—————	9
本学教職員著作寄贈	—————	—————	—————	—————	—————	—————	10
お知らせ	—————	—————	—————	—————	—————	—————	10
第12回医学図書館基礎研修会に参加して	[日野千賀子]	—————	—————	—————	—————	—————	11
図書館業務日誌	—————	—————	—————	—————	—————	—————	12
編集後記	—————	—————	—————	—————	—————	—————	12



## かぎろひ

上 田 晃 一



今年もまた、かぎろひを見る会がやってきます。去年はじめて参加しました。毎年行われていることは以前から知っていましたが、なかなか参加する機会がありませんでした。最近インターネットで十分に情報を得ることができるようになったので、行ってみることにしました。車のカーナビに奈良県大宇陀町阿騎野をセットする。家族を誘ったが興味がなく一人での参加となりました。午前0時に起床し、1時より出発、カーナビが優秀なので思ったよりも早く現地に到着しました。現地には続々と人が集まって駐車場は車でいっぱいでした。かぎろひの丘万葉公園は大きなたき火が行われ、今か今かとかぎろひを待ちかねて全国から集まった人々でにぎわっていました。万葉のコンサートあり、柿本人麻呂の解説ありで熱気に包まれている。甘酒や芋汁が無料で振舞われ、身体中が暖まる。しかし、肝心の日が昇る東の空は雲がたなびいている。今年もまた無理かと言った言葉がそこら中で聞こえました。かぎろひが立つはずの時間である午前5時50分がやってきた。「残念でした。今年もかぎろひは見られませんでした。」というすごくそっけないアナウンスが入りました。それでもみんなかすかな望みをいだいてかぎろひをひと目見ようとずっとたたずんでいる。

かぎろひは柿本人麻呂が詠んだ歌、「ひむがしの野にかぎろひの立つみえてかへりみすれば月かたぶきぬ」の中に出てくる現象のことで、厳冬の晴れた夜明けの日の出1時間前に現れる陽光であるという説が唱えられています。柿本人麻呂が軽皇子（かるのみこ、後の文武天皇）のお供で阿騎野を訪れて夜明けの情景を詠んだ歌で、ちょうどその歌を詠んだ同じ日の同じ時刻、同じ場所がかぎろひを観察する会が開かれています。わたくしは研修医時代に「人麻呂の暗号」という本を読んで以来、柿本人麻呂と万葉集に興味を持つようになりました。その本の中には、人麻呂は渡来系の人で古代朝鮮語を自由に操ることができたという仮説をもとに、人麻呂の歌を古代朝鮮語で詠んでいくと日本語とはまったく別の意味が隠されていると述べられており、まったく大胆な説で非常に興味深いものでした。ある歌では本来の意味とはまったく正反対で、宮廷を批判する意味が隠されているというものもありました。現在では万葉集はひらがなに直されていますが、もともとは漢字で書かれており、このかぎろひの歌は、「東野炎 立所見而 反見為者 月西渡」と記載されていました。古代朝鮮語も古代日本語と同じように漢字で記載されていた時代があり漢字で書かれた万葉集を古代朝鮮語で詠むことができるそうです。その本ではこのかぎろひの歌を古代朝鮮語で詠むと、人麻呂が今は亡き草壁皇子の亡霊を見たという解釈になるそうです。この本を読んで以来、一度はこのかぎろひを見てみたいという願望があり、初めて去年それを見ようと実行し、結局見ることはできませんでした。現地にいた人の話ではみんな何度も挑戦しているそうです。ここ最近ほとんど見れなかったそうで、去年は第33回目にあたりますが、30回のときに見えたものが一番かぎろひらしいと言われています。かぎろひを見るには晴れるのが絶対条件で、気温が十分に下がって放射冷却の状態が生じる必要があるそうです。最近地球温暖化のために気温が下がることが少なくなってなかなか見れないか、もう見ることはできないのではないかとされています。ことしかぎろひを見る会は12月18日の日曜日です。もし天気がよさそうであればまたぜひ参加したいと考えております。

(うえだ・こういち 形成外科学教授)

## インターネット時代；温故知新

伊 東 重 徳

多量の情報の中から目的のものを素早く探し出すにはコンピュータの力に頼るのが一番である。今の時代Medlineなどの文献だけでなく様々なデータベースが構築され誰でも使えるようになっていたので、労力をかけて自前のデータベースを作る必要性はほとんどなくなってしまった。一昔前、コンピュータ好きの人間は、山ほど抱えた文献の整理にパソコンを使おうと自前の文献データベースを作ったものである。時代は8ビットパソコン（NECのPC8001、懐かしい！）の全盛期であった。CPU処理速度は遅い、メモリーは少ない、外部記憶装置のフロッピーディスクの容量が少ない上に書き込み呼び出し速度は信じられない程遅いという三重苦の時代であった。コンピュータ好きの一人として私も文献データベース作成を試みた。今考えてみれば、費やした時間に文献の一つでも読んでいれば良かったかもしれないが、抑えがたい衝動にかられて突き進んだ。試行錯誤の末、文字データを数字に置き換えて保存し、検索して見つかったデータをもう一度文字データに戻すという手法を考え出した。文字列の検索よりも数字の検索のほうが何十倍もスピードが速い。データの保存量も格段に少なくなる。何とエレガントな方法を考え出したのだろうと一人悦に入っていたら、「ハッシュ法」と呼ばれている方法が昔から知られていることを知ってしまった。その後すっかり情熱が冷めてしまい、文献データベースは昔ながらのカードに逆戻りしてしまった。かなり長いこと利用していたのが自作のクロマトグラフィーデータ検索システムであった。クロマトグラムに番号を付けてファイリングしておいたものにインデックスを付けて様々な条件で検索可能にしたものであった。簡単なシステムであったが、結構役に立ってくれた。

近頃はデータベースが無いと研究遂行が不可能になるものも多くなっている。例えば、質量分析データを用いるプロテオミクスは多種類のタンパク質のアミノ酸配列データがあって始めて成り立つ手法であろう。私もヘモグロビンのペプチド解析をLC/MS/MSで行ってみて、データベースの威力を目の当たりにした。勿論分析技術の進歩のおかげである。昔1年かかった解析が1週間で済んでしまった。その時の気持ちは、嬉しいやら悲しいやら何とも複雑なものであった。

データベースは研究に限らず生活する上で欠くべからざる存在になっている。特定の目的に特化した、例えば環境汚染物質に関するデータベースなど利用者が限定されているものも多く存在しているが、インターネットが普及した今それと分からない所でデータベースは日常的な存在になっている。このことは、普段利用しているGoogleに代表されるインターネット検索エンジンが何故機能するのかを考えてみれば直ぐに分かる。世界中のホームページの内容をインデックス化して膨大なデータベースを構築している。調べたい事柄に関するキーワードを検索窓に入力すれば1秒以下で結果が返ってくる。昔は辞書や本を本棚から引っ張り出してページをめくってと随分と時間がかかった。今は一瞬である。インターネット上のデータは自動的に集められ巨大なデータベースが構築されている。米国で著作権法から裁判沙汰になっている図書館所蔵の書籍をスキャンしてその内容も検索対象にする動きがある。利用者の立場からすれば検索対象が多ければ多いほど良いのであるから、これは歓迎すべきことであろう。検索可能な情報は文字データだけでなく、インデックス化された画像の検索も可能になっている。地名を入力すれば地図が現れ、その地域の例えば本屋を検索すればその場所が示される。世界を席卷しているAppleのミュージックストアも見方を変えれば音楽のデータベースである。Amazonは市販されている書籍のデータベースである。こうした世の中の動きを見てみると、検索できないものは世の中に存在しないのと同義になりつつある。検索エンジンで上位にリストアップされないと、ある品物が売れなくなり会社の存続すら危うくなる。世界はデータベースの情報に依存していると言っても過言ではない。こうした大きなうねりの中で、

検索対象としての学術情報と一般情報の境目が無くなるのも時間の問題であろう。情報として本来区別できないもので、単に利用者がどのような立場に立っているかの違いに過ぎない。インターネット上での検索対象と見れば区別せずに集めた方が効率的であるし、利用者としてもその方が利用価値が高まる。

情報をいくらでも手に入れることができる世の中になっても変わらないのは、我々の頭である。情報処理能力はヒトのままである。検索エンジンにキーワードを入力すると見切れないほどの情報が返ってくる。多量の情報に埋没しないためには、明確な視点と得られた情報を組み立てる論理的な思考力が要求される。このことは情報化時代といわれている今と情報を得るのに手間を要した昔とで少しも変わっていない。情報が多量に手に入るからと言って、その能力が高められるとは到底思えない。この能力を身に着けるには、常に自分の頭を働かせて多くの経験を積み重ねる以外に方法はない。時間をかけた弛まざる努力が必要であろう。社会環境の変化から大学の教育カリキュラムが手直しされているが、こうした情報処理の能力を身に着けさせるには時間をかけた昔ながらの教育方法が意外と適している面があるのかもしれない。教育方法を色々といじる前に、もう一度昔の教育方法に目を向けてみる必要があると私は思う。

(いとう・しげのり 化学教室助教授)

## 医療は究極のサービス業 ——21世紀の医療環境(18)——

牧 彰



赤穂市民病院・院是「恕」銘板

NHK衛星放送の「ER（緊急救命室）」は、私が赤穂市民病院の設計・監理をしていた頃に、医師や医療スタッフたちとの意志の疎通を図るため欠かさず見ていた米国のテレビ映画です。今年で10年目の現在も、安定した人気を保っている「ER」の秘密は一体何処にあるのでしょうか？

先の「阪神・淡路大震災」で救急医療の真価が大いに問われていた時だけに、シカゴに実存する総合病院「ER」を舞台にして、常時緊迫している救急医療現場とそれを取り巻く複雑な人間模様やスタッフたちの生き様などを錯綜させた臨場感溢れる「人間愛のドラマ」でした。

放映当初からメディアにも大々的に取り上げられた話題作であり、「ER」の患者と医師を中心とする医療スタッフたちの社会的境遇などの「彼我的格差」を目の当たりにして、医療施設に関わる建築設計者にはとても新鮮で刺激的でした。

私たちは、季節・日時・場所などを問わず、あまりにも唐突に不慮の災害（病気・事故など）に遭遇します。それ故に、「サービス業である医療の原点」は、まさに救急医療・時間外医療の「ER」にこそあります。

今世紀前半に予測される巨大地震や無差別テロなどの社会不安が大いに懸念視されている中で、日常的な救急・時間外医療だけでなく、「不測の事態」発生時にはさながら野戦病院化するであろう地域医療への今後の課題は益々顕著であるといえます。多くの医療施設が「患者本位の病院」を掲げている昨今、真に地域社会に密着している「ER」は、果たしてどれだけ存在しているのでしょうか？

人類は、およそ数百万年前に類人猿から別れて、猿人・原人・旧人・新人という進化の過程を経てきました。ホモ・サピエンス（知性あるヒト）とは、「現生人類（新人）」を指す学術用語であり、猿人・原人・旧人などのホモ・エレクトゥス（直立するヒト）とは明確に区分されています。しかし、

近年、ネアンデルタール人（旧人）が死者に花を手向けていた事実に着目し、「旧人」はホモ・サピエンスの変種に見なされる傾向になりつつあります。「ヒトが人である」ためには、「優れた知能」と共に他者を労わる「優しい心」が必須であるということなのでしょう。

古代中国の儒者・孔子（『論語・衛霊公第十五』）は、それを「恕」という一字で「ヒトが人である本質」を明解に説明してくれました。弱者への「惻隱の情」は人だけが所有する感情であり、「人が万物の靈長である証」でもあるのです。また、物理学者で文筆家でもあった寺田寅彦は、医師には健全な心身・卓越した技能と共に、弱者を労わる「優しい心」が不可欠であるといみじくも述べています。

医師は、弁護士や建築家などと同じく「サービス業」です。サービスとは「奉仕の精神」を意味します。医師などの医療スタッフには、この「奉仕の精神」に則って、患者の「病んだ心身に宿る心を真に励まし、生命の尊さを自覚させ、生きる勇気を培う」という責務があります。医療は、患者の苦痛を和らげ病気を治癒するという行為により、「人の幸福を追求する職種」です。しかし、それは、決して他人の犠牲の上に成り立つのではなく、自分の幸福は必ず他人の幸福であり、他人の幸福が自分の幸福であるという「慈愛・博愛の精神」があってこそ、真に「医療は究極のサービス業」であるといえるでしょう。従って、医療に携わる全ての者には、生命に対する豊富な知識と愛情・畏敬の念が不可欠であるといえます。

HOTELとHOSPITALの語源であるラテン語のHOSPESは「もてなし」を意味しますが、共生・人権を標榜する今世紀ほど、医療の原点である「もてなしの心（恕）」が希求されている時代はありません。「生命の輝き」に真に感動する場所！それが地域医療の現場を担う「本来の病院」であると切に思います。患者とその家族が、そして、医師を含めた全ての医療スタッフが共に幸せになれる「夢の病院」が、今こそ切望されているのです。（完）

（まき・あきら 建築家 元日建設計社員 本学総合研究棟・本館・図書館棟設計担当）

## 一冊の本と出合って

梶 充 季

正直なところ私は、今まで好んで本を読んだことが殆んどない。唯一、記憶があるのは小学校、中学校、高校の夏休みの宿題である読書感想文を書くために無理やり本を読んだことぐらいである。しかし、その本は嫌々読んだせいしか私にとってあまり興味のない話であったように思う。このような私にOMNIBUSへ「私の読書についての話」を載せるという話があみだくじによって舞い降りてきた。その時は、本が苦手で、文章力のない私に何をさせるのだと思い、くじ運のなさに腹が立った。しかし、ずっと腹を立てているわけにもいかず、落ち着いて考えてみると、以前気になって、自分で購入した本があった事を思い出した。それは、私が高校生の時にクラスでも話題になっていて、また、ドラマ「金八先生」でも紹介されていた『種まく子供たち』であった。

この本は、小児ガンを体験した7人の子どもたちについて書いてあり、大変考えさせられる話であった。どの話も大変インパクトがあったが、その中の一人、加藤祐子さんの話について書きたい。彼女は13歳の時に急性骨髄性白血病を発病した。彼女は貧血と聞かされていたが、治療が始まると副作用で気分が悪く、髪の毛が抜けていく自分の姿を見て、白血病なのではないかと不安に思った。また、いろいろな症状から死んだ方が楽なのではないかと思う日々が続いたが、徐々に元気を取り戻し退院できた。しかし、以前のように学校に通えるようになっていたある日、母親から突然白血病だという告知を受けた。とてもショックで、なぜ私なのか、皆が同じ病気になれば私の苦しみが分かるのにと考えた。そんな時、再入院をすることになった。どうしても誰かに悲しい気持ちを受

け止めてほしくて、病気が原因で嫌われたらどうしようなどと悩んだ末に、友達に相談した。友達は彼女の気持ちを理解し、ありのままの彼女を受け止めた。その時初めて彼女は病気と向き合え、今は治る病気であり、告知を受けることは辛いけれど、受けなければ始まらないこともあるのだと、前向きに考えられるようになった。しかし、この後も再々発が彼女に振りかかった。ドナーが見つかったのに不適合だったので、また新たなドナーが見つかるのだろうかと不安になった。そんな時も、彼女のために小学生の子がポスターを書き、手紙を出してくれるなど、多くの人に彼女は支えられ応援してもらった。しかし、彼女は骨髄移植を受けたものの体力の限界で「少し休んだら、また頑張るから…」と言って、19歳にして旅立ってしまった。

私は、もし私が彼女の立場ならどうするだろうと考えた。彼女に襲いかかった疾患や不安を考えると、とても怖くなった。私にとって13歳の頃は、楽しかった思い出しかなく、そんな幼い時期に孤独感を味わったことがなかった。しかし、この世の中には、想像も出来ないほどの体験をしている人がいることを改めて感じた。そんな人達にこれから接していくのに、私はどうしたらいいのかを考え直したとき、しっかりと愛情を持って一人ひとりに接し、その人の支えになれるような存在になりたいと確信した。

この本を読んで、患者さんが一番勇気づけられるのは、やはり、ありのままの自分を受け止めてくれる家族、友人の支えなのだと思います。看護師を目指している私も患者さんや家族を勇気づけられる人になりたい。この本と出会い、今までになく多くのことを教わった。そして今でも「辛くても、苦しくても、それが生きてることだよね…」と言う彼女の言葉が胸に残っている。彼女の生きられることの幸せを同世代の若者達にも感じて欲しいと願っている。

本は、読んでいる時、いろいろな気持ちが溢れ、自分をいろいろな立場の登場人物にしてくれる。どんな本でも読み終わった時、また次の新しい何かを発見できると思う。今後は、このような本と出会うために、図書館や本屋に足を運ぼうと思っている。あみだくじが幸運を運んでくれたことに感謝して……。

(かじ・みつき 第二看護学科2年)

## 電子ジャーナルの利用状況について

図書館で利用できる主な電子ジャーナル（コンソーシアム契約）の利用状況について、電子ジャーナルのパッケージ毎に報告いたします。なお、対象期間は2005年1月から2005年8月の間です。

### Nature Publishing Group

利用可能なタイトルのうち、フルテキストを利用した件数が60件以上（12タイトル）の利用状況が表1です。表2以外のタイトルの利用状況は、50-59件が3誌、40-49件が4誌、30-39件が4誌、20-29件が6誌、10-19件が8誌、0-9件が16誌となっています。フルテキスト利用件数の合計は3,084件でNature本誌が約36%を占めています。

### ProQuest

利用可能なタイトルのうち、フルテキストを利用した件数が50件以上（13タイトル）の利用状況が表2です。表2以外のタイトルの利用状況は、40-49件が3誌、30-39件が1誌、20-29件が9誌、10-19件が21誌、0-9件が166誌となっています。フルテキスト利用件数の合計は2,628件です。

表1 Nature Publishing Group

Journal	2005 Jan	2005 Feb	2005 Mar	2005 Apr	2005 May	2005 Jun	2005 Jul	2005 Aug	合計
Nature	100	126	134	99	214	161	107	170	1111
Nature Medicine	24	21	49	29	44	18	27	14	226
Oncogene	10	18	36	17	15	30	22	43	191
Leukemia	16	44	29	11	2	18	11	29	160
Bone Marrow Transplantation	11	7	29	25	14	29	7	13	135
British Journal of Cancer	14	10	17	12	20	13	2	7	95
The EMBO Journal	10	21	14	2	0	12	9	9	77
Nature Immunology	16	7	17	3	10	1	9	8	71
Nature Reviews Cancer	5	14	20	7	9	5	2	0	62
British Journal of Pharmacology	0	0	3	12	7	10	14	16	62
Modern Pathology	20	6	1	2	2	20	6	5	62
Nature Reviews Neuroscience	6	2	3	8	4	1	35	2	61

表2 ProQuest

Journal	2005 Jan	2005 Feb	2005 Mar	2005 Apr	2005 May	2005 Jun	2005 Jul	2005 Aug	合計
The Journal of Hand Surgery	37	29	100	51	58	34	28	3	340
Journal of Bone and Joint Surgery American volume	23	46	54	21	16	8	5	16	189
Biophysical Journal	107	0	0	37	0	13	3	2	162
Science	66	6	12	9	14	18	9	10	144
Diabetes Care	35	3	7	11	10	13	12	25	116
Journal of Mammary Gland Biology and Neoplasia	0	0	0	113	0	0	0	0	113
Diabetes	2	23	3	7	15	22	20	5	97
The Lancet	6	9	10	1	14	14	13	8	75
Annals of Internal Medicine	7	15	8	14	5	5	1	8	63
Journal of Neuro-Oncology	10	5	6	7	2	5	4	23	62
Journal of Bone and Joint Surgery British volume	15	7	7	6	8	3	5	4	55
Journal of Orthopaedic Research	2	6	5	2	35	1	1	1	53
JAMA	4	5	22	9	4	0	6	2	52

### ScienceDirect

Elsevier社のScienceDirectは、個々のタイトルの利用状況が集計できないため、フルテキストを利用した件数を月ごとに表3で示しました。

表3 ScienceDirect

	2005 Jan	2005 Feb	2005 Mar	2005 Apr	2005 May	2005 Jun	2005 Jul	2005 Aug	合計
フルテキスト利用件数	1111	1183	1487	1221	1130	985	1080	1311	9508

### Scopus

Scopusは、検索件数を月ごとに表4で示しました。Scopusは電子ジャーナルのパッケージではなく、世界最大規模を誇る学術情報ナビゲーションツールです。抄録・索引データベースとして、文献検索を行うことができ、リンクにより図書館で利用できる電子ジャーナルに直接アクセスすることも可能です。利用者の皆様のさらなるご利用をお願いいたします。

表4 Scopus

	2005 Jan	2005 Feb	2005 Mar	2005 Apr	2005 May	2005 Jun	2005 Jul	2005 Aug	合計
検索件数	50	43	41	31	37	166	75	119	562



医学分館全景

広島大学図書館医学分館は、医学部・歯学部・大学病院・原爆放射線医科学研究所などがある広島大学霞キャンパスにあります。同キャンパスは広島市南区霞に位置し、JR広島駅からは南南東方向にあたり、路線バスを利用すると20分ほどの所です。バス停のある敷地西側が正門となり、南側に原爆放射線医科学研究所、北側に医学資料館があります。その先南側は医学部の病院棟が並び、北側は歯学部病院と学部学科等の建物が続き、図書館棟はキャンパス東端の真ん中に煉瓦造りで佇んでいます。

広島大学医学部の前身は1945年設立の広島県立医学専門学校に始まり、広島県立医科大学を経て1953年医学部として設置され現在に至ります。この医学部の設置に伴い図書館に医学部分館が置かれました。1965年には歯学部が設置され、それに伴い1967年に医学分館と改称されました。原爆放射線医科学研究所にも1961年図書館分室が置かれましたが、1981年廃止し医学分館に統合されました。1981年に現在の医学分館の新館（2階建て、面積2,077m<sup>2</sup>）が竣工開館しました。

図書館棟1階南向きに入口があり、入ってすぐ左手には事務室とサービスカウンターがあり、突き当たり複写室と2階への階段があります。1階を東に向くとOPAC・情報検索端末コーナーと新聞やブラウジング誌が置いてあるコーナーがあり、壁をはさんで開架閲覧室と書架があります。この壁にはシナプスがカラータイル張りで描かれており、図書館が大学の中核であることを示しているそうです。1階の書架には和洋新着雑誌と、欧文雑誌が配架されています。2階部分は建物西側からA.V室、会議等が出来る多目的スペース、書庫、セミナー室と続き、セミナー室はセミナーがない場合は自習室として開放されています。東側は開架閲覧室と和文誌（一部欧文誌）書架、図書書架があります。2階にも複写機1台があり、その周囲には参考図書やチュートリアル教育指定図書架があります。また2004年12月には書庫の一部移転により有線LAN15ポートを備えた8卓32席の自習室が2階に増設され、閲覧席は現在212となりました。上記書庫の移転先は図書館東側の空いた建物を利用し、1979年以前の雑誌を収納し、図書館延べ面積は2,382m<sup>2</sup>となりました。また、各階には無線LANが敷設されています。



OPAC・情報検索端末コーナー

図書館の開館時間は、平日午前8時30分から午後10時まで、土・日曜日は午前10時から午後6時までです。祝日・年末年始（12月28日～1月4日）および、書架整理のため第1第3月曜の午前中を休館としています。医学分館は学内に於いては医学部（薬学科、看護学科を含む）・歯学部・原爆放射線医科学研究所等を対象とした生命科学分野全般の図書館であり、また広く一般にも15歳以上で学習研究を目的とした方々に図書館資料と設備とを提供しています。

医学分館蔵書数は2004年度において和書58,311冊、洋書63,686冊で、カレント受入雑誌数は和雑誌591種、洋雑誌251種です。オンラインデータベースは医学中央雑誌、MEDLINE・CINAHLを霞キャンパスの部局負担で契約し、全学共通ではSciFinder、EBSCOhost、ProQuest Digital Dissertations、Web of Knowledge等を利用できます。電子ジャーナルは霞キャンパス地区限定では

AACR、LWW Fixed 100 Collectionを契約し、全学共通ではBlackwell Publishing、Cambridge、Elsevier Science、Kluwer、Springer、Wileyの6出版社と、Cell Press、Nature、Oncogene等を契約され、全体で人文社会科学系も含み8,600誌のコンテンツが利用できます。

医学分館のURLは<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/igaku/osirase.html>で、図書館サービスのお知らせや、医学分館独自のデータベース情報が発信されています。また広島大学図書館のURLは<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/index.html>で、蔵書検索、電子資料各種コンテンツの紹介、図書館利用案内、情報リテラシーのページ、Webからの図書館へのリクエストページ等があります。

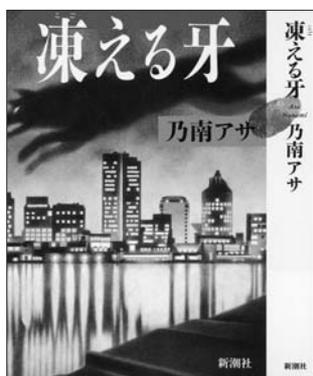
(宮本)

## 書評

### 「凍える牙」

乃南アサ 著 新潮社 1996

高 瀬 泉



小さい頃から祖父や母の影響で本に囲まれて育った私は、自然に本を手にするようになり、医学の道を志すきっかけになったのも小学生の時に開業医であった祖父に買って貰った1冊の本であった。それは、フローレンスナイチンゲールの伝記で大変感銘を受け、大きくなったらお墓を訪ねたいと思ったほどであった。

祖父は文学全集等を収集していたが、文学にとどまらず、非常に幅広い分野の本を購入し、面白い物があると大学から帰省した私によく勧めてくれた。

祖父が亡くなってからは、母がお菓子や果物を送ってくれる際に‘おすすめの本’を一緒に入れてくれるようになった。しかし、この2、3年、ほとんど読書に時間を割くことができずにいた。そんな折、母が送ってくれたのが直木賞受賞作家である乃南アサ氏の「凍える牙」である。私は法医学者として解剖し、死因を鑑定する業務に就いてからは、自らの仕事に関する小説等は敢えて読まないようにしていたのだが、この本には思わず引き込まれ、あっという間に読み終えてしまった。

本書は、東京郊外のレストランで爆発が起こり、現場から収容されたご遺体の状態から殺人事件の可能性が浮上し、捜査本部が設置されることから始まる。そして、警視庁機動捜査隊の音道貴子巡査とベテラン刑事滝沢保警部補と一緒に捜査を行うことになるが、その過程での両者の心理描写が鋭く描かれており、次第に明らかになっていく事件の真相とともに本書の主軸となっている。私とほぼ同世代の女性の心理が細やかに描かれ、その心情が手に取るように分かったり、逆に自分との違いを感じ、その強さを羨ましく思ったりした。一方、相棒のベテラン刑事の心理描写も絶妙で、日々刑事と仕事をする機会が多い私は、こんなふうに見られているのかしらと我が事のように興味深かった。また、この殺人事件には、底知れぬ力を秘めたある動物の存在が大きく関与している。その動物に関する描写も非常に巧みで、まさに今、目の前に存在してこちらを凝視しているのではないかという錯覚を起こさせるほどであった。本書には、その動物に対する作家の崇拜とも言えるような心情が見え隠れし、本書を単なる連続殺人事件の謎解きに終わらせていない。そして、音道巡査のさらなる活躍を期待させる内容となっている。これ以上の詳細については、事件を解明するという本書の性質上、また、これからお読みになる方のためにも述べないこととする。ちなみ

に、音道巡査シリーズは既に刊行されている。(もちろん、私が本書を大絶賛したため、同シリーズ数冊が母から送られて来た…)

私は、祖父と元警察官の父の影響もあり、医師になるか法律家になるか迷った末、現在の職業を選択した。この「凍える牙」を少しでも多くの方が手にとり、刑事や法医学の仕事により関心を持って下されば嬉しい。願わくは、法医学を目指そうという若者が増えんことを？！

(たかせ・いずみ 法医学助手)

## 本学教職員著作寄贈

後山 尚久 (産婦人科学)

女性と男性の更年期Q&A：お互いの心身の変化を理解するために／後山 尚久編著 ミネルヴァ書房 2005

大槻 勝紀 (解剖学1)

臨床に役立つ四肢・脊柱の断層解剖アトラス：超音波・MRI・解剖断面を比較して／大槻 勝紀他著 南山堂 2005

植林 勇 (放射線医学)

胸部・心・乳線・救急 (画像鑑別診断クイックリファレンス2)／植林 勇他編 金芳堂 2004

骨・関節・軟部組織・四肢脈管・系統疾患・PET (画像鑑別診断クイックリファレンス5)／植林 勇他編 金芳堂 2005

### 1. 図書館内は飲食禁止です。



ゴミ箱が飲食物のパッケージでいっぱいになっていたり、床に飲み物をこぼした痕とみられるシミが増えて図書館が汚くなっています。

館内の掲示で注意をお願いしてはいますが、各自でも気をつけていただきたく思います。公共の場でのマナーです。

### 2. Oxford University Press onlineを導入しました。

OUPが出版している57タイトルのonline journalが利用可能になりました。図書館のホームページからaccessしてください。

### 3. Wiley InterScienceを契約しました。

Wileyが出版する145タイトルのonline journalが2006年1月から利用可能になります。図書館のホームページからaccessしてください。



## 第12回医学図書館基礎研修会に参加して

日野千賀子

平成17年8月3日から5日の三日間、京大会館においてNPO法人日本医学図書館協会主催の第12回医学図書館基礎研修会が「信頼される医学図書館員になるために、知っておくべき知識と技術」というテーマで開催され参加しました。プログラムは次の通りでした。

第1日目 基調講演：「EBM時代の医学図書館員：期待される知識とスキル」

京都大学大学院医学研究科助教授 中山健夫氏

講義1：図書1（収書、受入、蔵書構築）大阪体育大学図書館 伊藤芳幸氏

講義2：図書2（目録、分類ほか）大阪医科大学図書館 宮本高行氏

第2日目

講義3：相互貸借 神戸大学附属図書館医学分館 笠原夕美氏

講義4：雑誌1（受入と目録）大阪大学附属図書館生命科学分館 岡田正章氏

講義5：雑誌2（電子ジャーナル）奈良県立医科大学附属図書館 鈴木孝明氏

講義6：情報検索1（PubMed）国立病院機構京都医療センター 小田中徹也氏

第3日目

講義7：情報検索2（医中誌）京都府立医科大学附属図書館 牧田眞紀子氏

講義8：情報リテラシー 京都大学医学図書館 北川昌子氏

特別講演：「JMLAの活動と今後の展開」

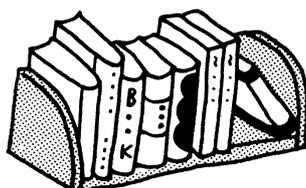
大阪医科大学図書館、JMLA理事 茂幾周治氏

この3日間の講義では、本を選び、受入、装備し目録を作成して分類する。電子ジャーナルの利さ不便さ。自館で所蔵していない資料を他館に提供してもらったり、逆に提供したりする相互貸借。情報検索では、世界の医学文献を検索できる“PubMed”と国内医学関連文献データベースの“医中誌”による文献検索方法。図書館の基本的な業務内容や業務の流れ、作業の進め方、といった内容でした。この基礎研修会は、漠然と図書館の業務は本の貸出・返却・整理以外何があるの？と思っていた私にとって、図書館業務が少し明白になりとても参考になりました。そして、京都大学の中山健夫先生による基調講演では、EBM（根拠に基づいた医療）時代の医学図書館員として誰に何をどうサービス提供するのか？その為に自分が何を学んで何を行えばよいのか？とのメッセージに医学図書館業務の幅の広さ深さと難しさ、自分への不安と責任を感じました。

最終日JMLA理事 大阪医科大学図書館 茂幾周治氏による講演で、そういったEBM時代といわれる現在、医学図書館や医療従事者、患者、家族が満足できる情報を提供するシステムが必要であると力説された。そのためにJMLAは、それらのライフサイエンス情報を扱うセンター館的機能を持った国立医学図書館設立に向け活動している。医学図書館に携わる者だけでなく一般のライフサイエンス情報を必要とする市民も今後のナショナルセンターの設立を期待しているだろうと結ばれた。

そして最後に、このような3日間の貴重な時間、研修会に参加させて頂きましてありがとうございました。まだまだ勉強不足で、情けないことにまだ胸を張って「図書館員です！」と言えませんが、この経験、体験が生かせるようこれからの業務に取り組んでいきたいと思えます。

（ひの・ちかこ 庶務係）



## 図書館業務日誌

- 平成17年 4月
- 4日(月) 新入職員図書館見学
  - 8日(金) 新入生図書館オリエンテーション(於、北西キャンパス)  
医図協総務会(於、中央事務局)
  - 15日(金) 看護専門学校図書館オリエンテーション(於、看護専門学校)
  - 19日(火) 図書館将来計画検討委員会(於、図書館会議室)
  - 21日(木) 図書館合同運営委員会(於、図書館会議室)
  - 22日(金) 医図協理事会・評議員会(於、東京慈恵医大)
- 5月
- 11日(水) 近畿地区医学図書館協議会例会(於、阪大生命科学分館)  
一回生文献検索実習(於、図書館)
  - 19日(木) - 20日(金)  
日本医学図書館協会総会(於、新潟)
  - 24日(火) 図書館将来計画検討委員会(於、図書館会議室)
- 6月
- 16日(木) 医図協総務会(於、中央事務局)
  - 21日(火) 図書館将来計画検討委員会(於、図書館会議室)
  - 22日(木) 一回生文献検索実習(於、図書館)
  - 23日(木) 図書館合同運営委員会(於、図書館会議室)
- 7月
- 7日(木) 丸善大学ITソリューションセミナーに館員参加(於、梅田ダイビル)  
ライブラリーコネクトセミナーに館員参加(於、京都リサーチパーク)
  - 21日(木) 医図協認定資格委員会(於、慶応大)
  - 25日(月) 館内情報端末入替、CD-ROMサーバ撤去
  - 28日(木) 医中誌user会に館員参加(於、大阪ガーデンパレス)
- 8月
- 3日(水) - 5日(金)  
医図協基礎研修会に館員参加(於、京大会館)
  - 8日(月) 紀伊国屋ジャーナルセミナーに館員参加(於、梅田スカイビル)
  - 29日(月) 医学情報処理センターuser会(於、第二会議室)
- 9月
- 12日(月) 医学情報処理センター運営委員会(於、第三会議室)
  - 15日(木) 図書館合同運営委員会(於、図書館会議室)
  - 21日(水) 電子ジャーナルコンソーシアム説明会に館員参加(於、阪大生命科学分館)
  - 29日(木) 医図協総務会、国立ライフサイエンスセンター準備委員会(於、東京慈恵医大)
- 10月
- 11日(火) LWW社ユーザ会へ館員参加(於、大阪国際会議場)
  - 21日(金) 医図協理事会・評議員会(於、東京慈恵医大)
  - 27日(木) 図書館合同運営委員会・図書館将来計画検討委員会(於、図書館会議室)
  - 28日(金) - 29日(土)  
図書館システムLVZバージョンアップ作業

## 編 集 後 記

今回のトップ記事は、上田晃一教授にお願いしました。また、エッセイは伊東重徳先生にお願いしました。21世紀の医療環境のシリーズは、18回目になりますが今回で終了となります。牧 彰さんには、大変お世話になり有難うございました。その他、多くの方に執筆して頂きました。表紙のカットは、北村達郎氏に描いて頂きました。読者の方の投稿を歓迎いたします。(茂幾)

OMNIBUS「大阪医科大学図書館報／大阪医科大学附属看護専門学校図書館報」

No.29号 2005年12月10日 発行

編集・発行 大阪医科大学図書館

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL (072) 683-1221

(内線2799, 2621)

印刷 大日本印刷株式会社